

令和元年度第1回 沼津市総合教育会議 議事録

- 開催日時 令和元年9月5日（木曜日）16時00分～17時35分
- 開催場所 沼津市役所水道部庁舎3階会議室
- 出席者 市長 頼重 秀一
教育長 奥村 篤
教育委員 川口 浩史
教育委員 三好 勝晴
教育委員 土屋 葉子
教育委員 重光 純

○ 協議・調整事項

- (1) 沼津市が目指す教育について

【内容】

1 開会

2 市長挨拶

本日はそれぞれのお立場で大変お忙しい中、沼津市総合教育会議にご出席いただき、心から感謝申し上げます。また、常日頃より、沼津市の教育について多大なる御理解御協力、そして御意見等をいただいておりますことに対し、この場をお借りして心から感謝と敬意を表する次第であります。

この総合教育会議は、市長が開催することとなっておりますが、その主たる目的は、教育委員の皆様と市長が綿密に連携を取り、意思疎通を図りながら沼津の教育をいかにしていこうかということでございます。昨年の4月に市長に就任して以来、今年1月に第1回目の沼津市総合教育会議を開催いたしました。その折には、皆様方の沼津の教育に対する熱い思いを聞かせていただき、併せて、沼津市の学校規模・学校配置の適正化について、様々な御議論をいただいたところでございます。今後私たちが、沼津市の未来ある子どもたちのためにいかなる教育を進めていくかということにおいて、大変重要なことと受け止めております。このたび、改めて総合教育会議を開催する運びとなりましたことから、このような機会を捉えて是非とも忌憚のない御意見をいただき、この会議を有意義なものとしていきたいと思っておりますので、御理解御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

(教育長挨拶)

改めまして、皆様こんにちは。

議員の皆様はもとより、学校関係者の皆様もこれほどたくさんお集まりの中で、総合教育会議を開催できることを大変嬉しく思っております。

私は常々、「まちづくりは人づくりにあり、人づくりは教育にある。」と考えています。令和最初の総合教育会議開催に当たり、市長が掲げる「誇り高い 元気なまち沼津」の実現に向けた人づくりのため、これまで以上に市長、市長部局と、教育委員会が連携して施策に取り組む、大きなはずみとなることを期待しております。どうぞよろしく願いいたします。

(出席者紹介)

3 協議・調整事項

(1) 沼津市が目指す教育について

会議の進行は、沼津市総合教育会議設置要綱に基づき、座長である市長が行う。

(市長)

それでは順次会議を進行していくので、よろしくお願ひしたい。

1月に総合教育会議を開催し、教育委員と「沼津の教育」について広く捉え、大所高所の視点で大きな方向性について意見交換を行った。その中で「現在の教育大綱の策定から4年近い時間が経過しているが、市長は教育大綱についてどのように考えているか」という御質問を教育委員から頂戴した。これに対し、私は、「この教育大綱自体は大変素晴らしいものであると考えているところであるが、時代が相当急激に流れているということで、子どもたちを取り巻く環境も当時とだいぶ変わっている部分もある。そういうところを適宜捉えさせていただきながら、期間は別として、しっかりと教育委員の皆様と機会を捉えて話し合いをし、あるべき姿、こういうふうに変えたほうがよいのではないかという議論になれば考えていきたい。」と答えた。

国でも昨年度、新たな教育振興基本計画を策定し、小学校では来年度から、中学校では再来年度から、それぞれ移行期間を経て新たな学習指導要領のもとで授業が始まる。

このように社会の潮流が激しい中で、沼津市では、令和3年度からの10年間の「まちづくりの目標」である将来像を示した、第5次沼津市総合計画を策定しているところである。市政において、当然教育とまちづくりとは切っても切ることができないものであると考えているところであり、教育の充実は、市民一人一人がいきいきと暮らすことに繋がり、沼津の魅力をより高めることに繋がっていくものと考えている。

こういった流れを受け止めながら、本日は、沼津市が目指す教育の姿について、前回の意見交換を踏まえ、今一步踏み込んだ議論をしていきたいと思う。

まずは、第5次沼津市総合計画を策定している中で、見えてきた沼津市全体の現状や特性、これからの展望について、市長部局の事務局から説明する。その後、教育の分野に焦点を当て、沼津の教育の現状、つまり理念や方向性を示した「沼津市教育大綱」と、教育大綱の理念や方向性を具現化するための指針となる「沼津市教育基本構想」をもとに、それぞれの教育施策が展開されているが、これらがどういうことを表している、具体的にどのような施策に結びついているかということについて、教育委員会の皆様はよく御承知のこととは思いますが、確認の意味も含め、事務局から説明する。

事務局説明の後、こういった現状を踏まえて、これからの時代を見据えて目指すもの、より推進していくものについて、意見交換をしていきたい。

(事務局から、沼津市のまちづくり、教育施策について説明)

(市長)

只今、事務局から第5次沼津市総合計画と、教育大綱、教育基本構想について説明した。これからの沼津の教育が目指すもの、推進するものについて、意見交換をしたいが、あまりにも話が広がりすぎてしまうので、大きなくくりとして2つのテーマに分けて、御意見を伺いたい。

1つ目は、「人間力を磨く教育」について。学校教育の分野に限らず、生きる力、人として持つ豊かな人間力を涵養するための教育について、御意見を伺いたい。

2つ目は、「まち全体で取り組む教育」について。先程来の説明にもあったとおり、地域の歴史や文化を知り、地域における人のつながりを大切にする心の育成、そして地域に貢献する人材を育てていくことは、教育の使命であるのではないかと考えている。これからは、ひとづくりとまちづくりの連携により、誇り高い元気なまち、子育て世代にも魅力あるまちづくりをさらに目指していきたいと思うところであるので、「まち全体で取り組む教育」という視点について、御意見を伺いたい。

それでは、まず「人間力を磨く教育」についてである。

先程の事務局の説明にもあったが、教育基本構想の目標のひとつに「知・徳・体を自ら磨く」とある。「知」すなわち確かな知性・知力、「徳」すなわち豊かな心、「体」すなわち健やかな体、これらの視点から、これからの沼津の教育が目指していくもの、推進するものについて御意見を伺う。それでは、教育長からどうぞ。

(教育長)

「人間力」を磨く教育ということであるが、「知・徳・体」を総じて言い換えるならば「生きる力」であると言える。沼津の子どもたちが、社会環境の変化が加

速するこれからの時代を生きるために、身に付けさせて、向上させたい力について述べたい。

子どもたちが主となって活躍するのは2030年代頃であろうかと思うが、どのような社会なのか予想するのが困難と言われている。そのような社会で生きていくのに必要となる力を身に付けさせることは、やはり大人の使命である。中でも私自身が特に必要と感じている力としていくつかある中で、まずは「聴く力」を挙げたい。生活でも仕事でも信頼関係を築くためには、相手の話を正確に聴くことが求められる。LINEやショートメール等の短文によるメッセージに、子どもたちは非常に慣れている。そうすると、五感を使って相手の話を聞き取る力が鈍ってくるのではと思う。コミュニケーションの構成には、言語だけでなく、非言語が占める割合が非常に大きい。言語でない部分、非言語を感じ取ることができないと、場や空気を読めなくなってしまう、人間関係の構築に大きな影響や、支障をもたらすのではと思う。

2つ目としては、「人間関係調整力」が必要である。これからの時代は、相手の価値観を尊重しながら自分の考えを主張していくことが求められる。相互尊重が根底にあるべきと考えるが、非常に価値観が複雑化している中で多様な考えを受け入れたり折り合いを付けたりすることはとても大事なことである。

3つ目としては、「問題解決力」を挙げたい。学校教育とは異なって社会では課題は与えられるものではなく、自らが見つけ出すものである。そのためには、主体的に考え、行動する力が必要となってくる。それを支えるのが「探求力」である。「どうしてなのかな?」「なぜだろう?」「調べてみたい」「分かってみたい」という気持ちやワクワクする源は、「好奇心」ではないかと思う。その他にもこのような力だけでなく、人工知能AIを使いこなす力も必要となるし、友達や地域や沼津市などに役に立ちたいとか貢献したいという気持ちも非常に大事になってくると思う。これらの力を授業や行事など教育活動を通して育てていくことが非常に大事であろうと思う。周知のとおり、沼津市では昨年からは全ての中学校区で小中一貫教育への取組が始まった。各中学校区で子どもの実態を踏まえ、9年間でどのような力を身に付けさせたいのかを共有していただきたい。そういう力を系統性、連続性を持って小中学校の教職員でカリキュラム・マネジメントをして教育活動を推進してほしいと考えている。

(委員)

自分は今管理職をしているが、教育長のお話を聞いて感じたことは、「聴く力」「人間関係調整力」「問題解決力」これらは全て社会に出て、職員教育と一緒にだと思いき、原点となるような力を、地域での子育てなどでも一緒にあり、人間というのは生まれてずっと同じようなところを目指していくのだというような感想を持った。

それで、この2つのテーマ、自分では思うところが2つあり、1つ目が乳幼児期、幼稚園などから小学校に上がる、そういうところの先生方の連携、これは公立私立問わずに連携していかなければならないと思うわけで、小1ギャップという言葉があるくらい学校に馴染めなかつたりいられなかつたりすることもある。そのときには、小学校に上がってから担任の先生がその子その子に向き合っていく。きっと幼稚園などのときの様子などの情報共有や連携をすることができると、今よりもスムーズに学校に溶け込んでいけるのではと考える。

もう1つは、前回の総合教育会議でも地域のコミュニティ力が弱くなっているのではないかと感じているという話をしたが、人間力を磨くその原点は、きっと家庭教育であると思う。家庭でのしつけであるとか、子育て世代には身近な先生がいないのではないか、「親」の先生というか、以前は近所のおばちゃんが口出しをして支えたりするようなことをしてきたのではと思うが、今はそういうことも難しくなっている。今のお母さん方も何かあるとまず自分で調べると思うが、同じステージの方々と「こうしたらいいよ」とか経験や意見を聞く場があまりなくて、核家族化が進んでいく中で、お父さんお母さんへの支援も非常に重要ではないかと思う。子どもたちへの支援も当然必要なのだが、お父さんお母さんへの支援も人間力を磨く中で核になるようなものではないかと思う。

(委員)

人間力という話で、今、教育長からも生きる力とか、いろいろな話があったところであるが、私は子どもたちにとって何より大切なことは、寄り添ってあげることかと思う。学校の先生方も教育現場で子どもたちに寄り添っている。もちろん家庭でも当然子どもたちに寄り添って教育をしているということは大事なのだと思う。そうすることで子どもたちは安心する。そうすると、子どもたちはいろんな夢や発想が出てくるのだと思う。いろいろな視点から話をしなきゃいけないかもしれないが、とりあえず学校教育という中で人間力という視点から話をすると、学校が子どもたちにとっては一番大事な部分であって、1日のうちの何時間も学校にいるわけである。学校現場では、いわゆる不登校やいじめの問題がここ何十年も問題となっているわけで、そういう中で例えば不登校といってもいろいろな理由があることは、教育現場では十分承知のことである。それに対して、先生方は個々の子どもたちに寄り添って考えているわけである。

不登校の問題も、この問題は少し焦点がずれてしまうのかもしれないが、学校現場だけが教育なのかと、学校に行かなければならないのかという問題も孕んでいるわけである。フリースクールや家庭での教育を受けることができず何年も前から言い尽くされているわけであるが、学校現場でもおそらく学校に来られなくても別の道を探ってあげる、それは子どもたちに寄り添っているからこそであって、先生方を持ち上げているわけではないが、教育行政の所管である教育委員会がよく

理解すること、そういう現場であることを理解する。そして、それを市長や議会の皆さんも、教育というのは学校現場だけに任せて、できなかったことを「教師がだめだから」と一方的にやっつけてしまうような方向性というのはどうかと思うので、先生方にも周りの社会が寄り添う。そのことで、子どもたちにとって安心できる環境を作ることができるのではと思う。そういうことを、機会を捉えて話していくことで、共通認識を持つ。それが社会全体で教育をしていくということに繋がるのではないかと思っている。方策としてはいろいろとあるのではないかと思うが、まずは、学校現場で先生方が子どもたちに寄り添っていること、大変な現場であることを周りが理解する。それも市長を始め、言うならば日本の総理大臣がわかっておいてほしいと、そんな気である。そういうことがわかっていないと、「教育が一番大事だ」と、「国家 100 年の計は教育にある」とお題目のように言っても、それはいろんな施策に表れてこないのではないか。

(委員)

私も、教育というのはなかなか難しく、これだけいろいろな人間がいて、いろいろな家庭があって、いろいろな子どもたちがいて、「こういう教育を与えることが人間力を付けることになる」ということは、自販機みたいに直ちに答えが出るというようなものではないと思う。私自身は小学校3年生と2歳の子を育てている最中で、3年生の子に「ああしろ、こうしろ」と言うが、何一つ自分の思い通りに動いてくれない。むしろ自分の子どもをどう教育していったらよいかと、人に聞きたいくらいであるから、そんな人間がここで偉そうに語るのもいかなものかという気がしていて、我々は教育に直接的に携わっていない一般の市民としては、自分がどのような教育を受けてきたかという経験からでしか、どういうことがよかったかという教育を語る術がなく、しかも私自身としては恵まれて育ててきたと感ずるもので、こういう人間が果たして「こうすればいい」と言うことはなかなか難しいと思う。ただ、根本的に必要なことは、子ども自身が自尊心を持てるような教育や社会でなければならないのであろうと思う。自分自身に対して自信がない、価値がないと思ってしまう子は、自分がやりたいと思ってもそれを口に出すことができなかったり、「こうじゃないのか」と思っていたとしても周りの同調圧力に負けてものが言えなかったりすることが、まああってはならないとは思いますが、好きなこと、興味があること、勉強したいこと、面白いこと、それに対して、自信を持って興味を持って進めていけるような、それを後押しできるような家庭であったり学校であったりする必要はないかと思う。それはもちろん、各家庭の経済事情や親の考えなどがあってうまくいかないこともあるだろうが、子どもがのびのびと自分を出せるようなことが必要であって、そうでないと人間力というか、自分が生きる力を自分で身に付けていくことができないのではないかと思う。

私個人として、ことばのことについては、イングリッシュアドベンチャーなど英

語教育に関して沼津市でもがんばっていると思う。ただ、英語教育も大事ではあるが、やはり日本語教育、母国語をきちんとやってもらうことも大事と思う。自分の子どもに「もうちょっとうまく説明してくれないかなあ」と思うことがある。言葉でうまく説明できないとコミュニケーション能力は育たないので、人は母国語でコミュニケーションして、母国語で考えていくものだから、その辺の力が成長していないと、やはり思考力ないしコミュニケーション能力は育たないのだろうと思う。

特に沼津は、歴代のペンクラブの会長に3人もゆかりのある人が出ているということで、文化的にも日本語能力の涵養に十分な歴史的な素地があるのではないだろうか。私自身も弁護士として仕事をしている中で、自分の伝えたいことをどのようにして表現していくことが最も良いかと、もちろん依頼者と話をしているときにも相手を傷つけないようにしてどうやって説得したらよいかということに関して、非常に言葉の使い方というのは重要なことではないかと思っている。

先程、自尊心について話したが、子どもたちが自分の良さを、人の良さも認め合えるような教育をしていただきたい。それは道徳教育であると思うが、道徳教育というのは、学校でどうこう教えたって、周りの大人や親がそれになかったような行動をとっていないと、子どもは嘘を見抜くので、我々大人が子どもたちに対して後ろ指を指されるような行動をとらないこと。そして、今ネットでは、ミスをした人や悪いことをした人を皆で指さして「こういう人間はどんな人格否定をしてもいいんだ」とみたいに盛り上がったりするが、そういうことを恥ずかしいとか醜い行為であるということ、大人がきちんと指摘をして、そういうことを一切しない、そういう社会であってほしいと思うところである。

(委員)

私は、一般的に「人間力」というと、人としての総合力であると思う。それは人間的な魅力や持っている自力、つまりその人の本質的な魅力であると思っている。近年教育の分野で「人間力」という言葉が多く使われるようになり、言葉だけが独り歩きしているように思う。ここで言う教育における「人間力」とは、社会を構成する人間としての社会的基礎力であると思う。先程教育長が話していた、社会の形成者としての資質の育成がひとつであるが、それと豊かな人間性と感性の育成、健やかな身体の育成、そして先に委員が話していた国語力、つまり自分の意思を他人に伝える言語力の育成。これらが教育における「人間力」と考えることができると思う。

この中で私が特に大切だと思うのは、豊かな人間性と感性の育成である。豊かな人間性を育むことにより、それぞれが他者を認め、相手の立場になって温かく思いやることのできる心を育ててほしい。

今、いじめや不登校など様々な心の問題が多い時代であるからこそ、子どもたちには豊かな心、相手の気持ちを思いやることのできる、ゆとりある心を育ててほしい。

いと思う。そして子どもたちは皆のびのびと楽しい学校生活を送ってほしい。そのような教育は社会全体にも良い影響を及ぼすであろうと思う。

(教育長)

今、教育委員からも出てきた自尊心とか思考力とか協調性とか忍耐力とか、そういう「非認知能力」は、幼児教育で生まれ、今後大きく影響する。人づくりの中で、家庭教育が一番の原点であるが、幼児教育は、生涯における人格形成の基礎を培う時期であり、大人になってからの生活に非常に大きな差が出てくるといろいろな研究でも言われている。

今、私たちは小中一貫教育というものに大変力を入れているところであるが、小学校に上がってくるまでの段階の幼児教育は、いろいろな幼稚園や保育園に通っていても、卒園すると、住所によって指定された小学校に入学する。入ってくる段階でばらばらな状態が見られ、小1プロブレムという、離席をしたり問題行動があったり不登校があったり、今とても大変な状況にある。1年生のどのクラスにも支援員を配置しているが、なかなか良くなならない。私立公立と関係なく、幼児教育と学校教育の円滑な連携に力を入れていかないと、小中一貫教育が充実していかないと考えている。私立幼稚園や私立保育園、市立保育所を所管している市長部局の子育て支援課と教育委員会の部局がどのように連携していくか、ここはなかなか足を踏み込めない場所であったが、「人づくりはまちづくり」ということを考えていくと、連携・協働に向けて大きく足を踏み込んでいかなければならないのだと思っている。

(市長)

時間のことも見ていかなければならないので、御意見も尽きないところではあるが、次のテーマ、「まち全体で取り組む教育」について、こちらも非常に重要なテーマであるので、皆様の御意見を伺いたい。まず、教育長からどうぞ。

(教育長)

繰り返しになるが、頼重市長の掲げる「誇り高い元気なまち」の実現を目指して、やはり「地域が学びを育て、学びが地域を育てる」というコンセプトのもとに、「地域総がかりで育む人づくり」を推進していく必要がある。これは、令和2年度から全面実施される小学校の学習指導要領で生きる力の育成は継承していくが、「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「地域とともにある学校」といった新たなフレーズで象徴されるように、これからの社会の変化を想定した長期的な視点に立った改革が示されている。

その背景には、変化の激しい社会の中で、子どもたちを取り巻くいろいろな問題も急激に変化し、その対応や解決が思うように進まなかったり、追いつかなかつたりという実態がある。これらの問題を学校教育だけで対応するという事はなかな

かできないように思う。やはり、各地域の未来を担うのは誰なのかと考えたときに、子どもたちであるわけだから、その子どもたちを育てていくときに、子どもたちの生活基盤となっている地域や、あるいはその地域で子どもたちの教育に関わりのある社会教育団体など、これらの人たちの果たすべき役割は、今後非常に大きいものと考えている。

子どもたちは、次世代の地域を作っていく人材であり、地域と学校は切り離すことのできない関係であることを共有することが、非常に大事であると思っている。

学校と地域が「育てたい子ども像」というものを共有して、一緒になって地域の子どもたちを地域で育むことで、これが今後地域の絆を強めることにもなり、地域の担い手を育てることに繋がるのではないだろうか。そうすると、教育委員会の生涯学習課と、市長部局の地域自治課との連携が絶対に必要になってくると思う。

(委員)

「まち全体で取り組む教育」と言うと、教育長が話したように、各地域で、中学ブロックの単位で、地域によっては学校とよく連携が取れていてよく応援してくださっているところもあったり、そうではなかったり、かなり市内でも温度差が大きいはずである。それを統一して進めていくということもなかなか難しいので、今まで続いているいい伝統のあるところは、どんどん伸ばしてのびのびとやっていただきたいし、ちょっと遅れているようなところは、いいところを見本に進めていただいでくださるといいと思う。

この「まち全体で取り組む教育」という点から言うと、前から話しているとおおり、この沼津を愛する教育、沼津を好きになる教育、子どもたちは沼津が大好き、ふるさとが大好き、沼津から離れて沼津の良さをわかった、そんな教育をもっともっとわかりやすく、印象深いものにして進めていただきたい。大学進学などで沼津を出ても「沼津に帰って沼津で働こう」「沼津で子育てをしよう」「沼津の良さがわかるから、このまちで一生過ごしたい」と思うような子どもたちを育てたいし、育ててもらいたいと思う。以前、市長が話していたように、そういう人たちのためには働く場所も必要であるし、沼津市のこれからの計画がとても大切になると思う。子どもたちがまた沼津に戻ってきて、にぎやかなまちづくりに貢献してもらえる人材に育ててほしい。沼津の未来のために、教育は形のないものであり、すぐに答えが出るものではないが、最も大切なものであると思う。

(委員)

私は、東京生まれ、東京育ちでして、沼津には社会人になってから来たもので、子供会とか校区祭というのを見たことも出たこともなくて、こういうものもあるのだなど、学校だけではなくて、まち全体で、地域で、子どもを育てているのだなあと初めて知った次第である。

先程申し上げたように、自尊心というのを子どもに身に付けてもらいたいということは、やはり郷土愛、自分が生まれ育ったところを愛する心は、自尊心のひとつのコアになる部分かと思う。郷土愛であったり家族愛であったり、もしくは母校とか、自分が所属するコミュニティに対する愛情、そういうところを誇らしく思う、もしくは大切なものだと思うことは、そこで育った自分自身を愛する力に繋がるのではないかと、今の沼津に住んでいる沼津市民が沼津を愛していけるようになればいいのかと思う。もちろん、夢のある人づくりである以上は、夢の持てるまちづくりをしていただく必要があるのではないかと思う。じゃあ、このまちをどうするかというところは、その辺は市長にお任せするとして、ただ、今沼津に住んで沼津で働いて沼津で生きている大人たちがやはり生きていること自体を非常に楽しく充実して過ごしているように、子どもたちにその背中を見せる必要があると思う。「今生きていても何も面白くないよ」ということでは、そういう大人を見ている子どもが夢を持てるわけがないものであるから、大人自身が今の生活を一生懸命楽しみながら頑張って生活していく、そういう接し方を子どもに見せていくということはまず第一なのかと思う。沼津もおいしいものがいろいろとあり、住みやすいし、地震もあるかもしれないが、それはまちの皆さんと協力して対策を練っていけばいい。ちょうど今日は沼津自慢フェスタがあって、今日から3日間中央公園で開催される。沼津の良さを自覚して、いいまちであるということを感じていただくということがまず第一かと思う。細かいことはその地域ごとにどうこうして行って、ただ、そういうところでも近所の人たち同士で挨拶するとか、声掛けしていくとか、近所の人同士のコミュニケーションを取ることが大事かなと思う。近所の人たちに会っても挨拶しない大人が、子どもに『おはようございます』って学校で言え」と言っても誰も信用しない。大人自身が地域の中で子どもがこういう大人になればいいのだなという姿を示すべきではないかと思う。

(委員)

今、委員がとてもいい話をしてくださった。本当にそのとおりだと思う。郷土愛、我々大人も背中を見せていく、そのことは必要なことだと思う。それがひいては、国際感覚を身に付けるという点でも基礎のことになるだろうと、やはり自分のアイデンティティであるから、基礎のことになるのだろうと思うところである。今日は、私自身、気持ちや精神的な話ばかりしているところだが、「まち全体で取り組む教育」に繋がる話をさせていただきたい。マスコミを騒がせるような、本当に目を覆いたくなる、しつけと称してとか、虐待とかということがある。なんでそんなことをするのかと思うけれども、自分の子どもを物のように扱うというか、親にはきちんと子どもに教育を受けさせる義務はあるが、所有物のように思ってしまうので、ああなってしまうのかなと。子どもというのは生まれた時点で人格があって、まだしゃべれなくて泣いたりすることでしか表現ができないけれども、それでも一つの

人格がある。自分も「きちんとできたのか」と言われてしまうとそこまできちんとできていないかもしれないが、ただ思うことは、子どもの人格を認めていくという社会全体のことも必要だということである。教育長の話にあったように、「まち全体で取り組む教育」のあり方、地域全体で教育に取り組む必要があると思う。学校教育で言うと、先程言ったように学校現場で子どもたちに寄り添う、学校現場の状況を外の人たちにも発信してほしい。「これだけやっていて大変だ」と言い方ではないが、状況を発信して、そのことを地域が理解をする。行政も市長も理解して、地域の中で認識されればそれに対して「手伝ってあげなくちゃ」「どんなことしたらいい？」とそういう動きもあるのではないか。学校の中だけで全てを完結させようとするのは、教育長が話したようになかなか難しいことかと思う。学校がバックアップをもらうにも、バックアップする側の地域も現状を知らなければできない。現状を知れば、いじめでも不登校でも学校にこんな問題があって、「そうか、先生たちは大変だよな」というような共通認識が地域にできれば、少しでも時間が取れる人が「何かやりましょうか」「何かできることがあるかな」という動きもあるのではと思う。地域、市全体で子どもたちを見ていくという思いがあれば、地域の中でいい環境が醸成されるのではないだろうか。そんなことを折に触れて、市長を始め、議員の方々も広く話していただければと思う。世の中の人たちは「学校の先生ってちょっと変わっている」「世間離れしている」と思うところもある。実際にそういった人もいるが、でも私は、「世間離れしていたっていいじゃないか、子どもたちのことを一番に、それだけ寄り添っているのだ。」と、そう思う。それだけ子どもに寄り添って、子どもに心を寄せていることが子どもに安心感を与えて、そこで少し傷ついていた子どもが安心感をもらったことで次のステップへ自分で心を立て直すことができる、そういう寄り添う姿勢というものが必要であると思う。それは理想的なことかもしれないが。

(市長)

御意見には、委員の実体験が生々として出ていたように感じる。

スキルや思いがあっても、相手の内部の状況がわからなければ援助や対応ができないということも事実と思う。

(委員)

先程の委員が話したように痛ましいことが多く起きている。人は一人じゃ生きていけない。孤立させない地域、孤立させない社会が非常に大事である。

地域の行事に参加すると、直面する課題がある。それは地域行事に参加する人や自治会の役員、ボランティアの方々なども高齢化しており、次の世代に送ることができないで困っていることを聞く。社会が変わってきているということもあるが、PTAや子供会も任意で参加するものであるから、それに入らない世帯が増えてき

ている。孤立させないコミュニティをみんなで作っていかねばならないわけで、子供会やPTAなどのあり方を社会に合ったリノベーション、形を変えるとか、具体的な方策はわからないが、必要なのかなと感じている。

(教育長)

ここまで、これから目指す沼津の教育の実現に向けて話し合ってきたが、教育委員も私も「こういうこともしたい」「こんな風にしていきたい」という思いと、まだまだ高い壁が立ちほだかって、課題もあるという思いが交錯している。これらの課題については、教育委員会としても、事務局と一緒に、視点や発想、意識を変えて取り組んでいく必要があるという思いを新たにしたところである。

冒頭、市長が話されていたとおり、教育大綱の策定から4年近くが経過し、その間に、市長も変わられ、教育長も変わった。現在、新たに第5次沼津市総合計画の策定を進めている状況や、本日の協議にあった「こうありたい」という沼津の教育の目指す姿、沼津の子どもたちの育てほしい姿を踏まえ、教育大綱を見直すことについて、ぜひ市長のお考えを伺いたい。

(市長)

教育長から、只今、大綱を見直すことについて、私の意見をという話があった。冒頭においても、私から沼津市教育大綱については大変素晴らしいものであるという認識を示したところである。

本日、教育長、教育委員から改めて沼津の教育に対する思いを聞き、その中においてはまだまだ改善していかなくてはならない、推進していかなくてはならないところ、課題と言えるような部分、本当に解決していくためのツールとしてまだまだ足りない部分があるのではないかと捉えたところである。現場サイドからいろいろな御意見を聞かせていただいている、私自身もPTA活動、地域におけるボランティア活動、スポーツ少年団を始めとする子どもたちを取り巻く様々な活動を通じて現場サイドの御意見をいただいている。そういうことを踏まえ、先程も触れたように、現在沼津市では、第4次沼津市総合計画が令和2年で終わり、その次の第5次沼津市総合計画の策定に向けて骨子案を昨日市議会の全員協議会で御提示したところである。

先程教育長からもあったとおり、小学校では令和2年度から新学習指導要領のもとで授業がスタートし、市の総合計画や、国の教育振興基本計画などに準じて取組を進め、また、置かれている様々な課題をしっかりと解決していくには、時代の流れ、潮流、市民ニーズというのか、教育に対するいろいろな御意見などを踏まえながら、教育大綱は、変えていく時期に来ているのかと捉えている。時勢に沿った形で教育大綱、あるべき姿をやはり教育委員会としっかりと検討していく。沼津市総合教育会議というのはそのためにあるわけであり、市長が開催する

ものではあるが、教育委員会と意思疎通を図りながら進めていくに当たり、教育委員の御意見の中においてもやはりそういう流れがあるということもあり、先程来お話をしているとおり、いろいろな流れの中で時期に来ていると考えているところである。

そこで、教育委員の皆様方の意見の中に出ていたことを踏まえながら、現在の大綱は、事務局の説明のとおり、「明日の社会を担う『夢ある人』づくり」を目的として、これはいろいろな場面で皆様に御説明をしている。基本的な方策として4点挙げられているという説明もあったところだが、非常にシンプルに作り上げられている。そのような状況を踏まえ、この目的や方策が今の時節に合っているか、そういうことも考えなければならないと捉えているが、現時点でかまわないので、大綱に盛り込んでいきたいキーワードや見方、観点について、教育委員の皆様がどのような考えなのか、聞いてみたい。いかがか。

大綱を見直すという方向性であるのなら、地域の未来を担う大切な我々の沼津市の宝である子どもたちのための教育大綱ということで、今の大綱を見直すに際して、例えば時流と言う話をしたが、「社会の情勢の中でこういうことをしっかり取り組んでいくべきではないか」など、今までの御意見の中で結構出ていたものもあるが、「ここは大事なのでは」ということ、「これは取り上げてほしい」ということがあれば伺いたい。いかがか。

(教育長)

先程来話しているとおり、地域の子どもたちは地域の未来を担う人材であるから、地域のみんで育てようという「地域総がかりで育む」というような内容を盛り込むことはいかがか。また、これまでの大綱、教育基本構想では『『夢』ある人づくり』の理念の中に「夢」というキーワードがあった。「夢」を持つことはいい。ただ、いろんな捉え方として、夢の実現には、個人的な夢を叶えようと努力する姿勢が強調される。私は市長の「誇り高い」というような言葉から捉えると、自分が「地域のために」とか「沼津のために」とか「役に立つ」という思いを持つ子どもを育てたいということで、「志」というキーワードを入れられるといいと思う。

(委員)

『『夢』ある人づくり』という言葉は、沼津市の教育基本構想の中で語られた言葉で、教育大綱に関してはこれに沿った形で同じ言葉を使うことで作られたものであると承知している。今年沼津市の基本構想も改訂していくという考えもあるので、今教育長の「夢」でなく「志」という言葉を使うことについて、それが相応しいのであればそれも良いかと思う。したがって、教育大綱は、前回のよう形で作られたものであるので、新たな教育基本構想に準ずるのではないかと思うがいかがか。

(市長)

貴重な御意見として受け止める。

そのほかに、いかがか。

(委員)

これがキーワードかというのはちょっとわからないが、「人に寄り添う」ということがとても大事なことかと思う。言葉そのものを入れるかどうかは別として、前の教育大綱だと、ある程度文章が長い。「地域における人と人とのつながりを大切にし、『住んだところ』『住んでいるところ』『住むであろうところ』を愛する心をはぐくむ教育」、もっとコンパクトにまとめられるのか、やっぱりある程度このままでないと伝えられないのかとも思うし、4つなのかどうなのか、ある程度教育のことであるから、子どもたちへの思いを乗せて「どういう風になってほしい」「普段をどういう風に過ごしてほしい」ということを、やはりこの中に取り込めたい。

(委員)

言葉として落とし込むのに「こうだ」というのはなかなか難しいが、子どもたち同士が他者を認め、他者の良いところを認め、隣人愛というか、お互いを認め合う心、そういうところが盛り込まれたらいい。郷土愛だけでなく、他者の良いところを認め合って、それでお互いを高め合って、それを踏まえて自尊心が芽生えてくるのだろう。人をけなす、そういうことと逆に、良いところを認め合う、高め合っていく心、そういうものを養っていく教育ということを、言葉でまとめることができたらいのかという気がする。

(委員)

今の教育大綱の基本的な方策で、今も委員が隣人愛ということを行ったが、いろいろなところで「愛」が出てくる。もっと「愛」を強調して、出してほしい。「愛」を持った子どもを育てていきたい。

(市長)

本日は、教育委員の皆様から様々な貴重な御意見をいただいた。正しく、心の底から響いてくるような、魂の叫びに近いようなテーマもあったわけだが、教育大綱を変えていくという方向で皆様と共通の認識を持つことができたと考えている。大変有意義な会議となることができたと私自身も考えており、心から感謝申し上げたい。

次回は、大綱の策定に向けて、具体的に話を進めてまいりたい。

(2) その他

(市長)

それでは、協議・調整事項の(2)「その他」として、いかがか。

(特にないということで) よろしいか。

以上で、予定していた会議日程を全て終了する。

今後とも、教育委員会の皆様方としっかりと連携を密にして、沼津市の未来を担う子どもたちの教育の環境の整備等を進めてまいりたいと思うので、よろしく願いしたい。

4 閉会